



福島小学校だより

ふくしま

ホームページ <http://www.wakayama-wky.ed.jp/fukushima/>

No. 5

令和4年8月25日



二学期が始まります

校長 中村祐佳子

夏休みの間は静かだった校舎に、子供たちの明るい笑顔と元気な声が戻ってきました。コロナ感染対策として、始業式はオンラインでの式となりました。

今後ともご家庭の協力を得ながら、手洗い、換気、マスク着用、密を避ける、静かに給食等、感染対策を図りながら、子供たちが楽しく学習できるよう教職員一同力を合わせて取り組んでまいります。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

～ 茄子で一句 「とれたよ」と水跳ね上げて紺の茄子～

今年も「夏の俳句をつくってみよう」と子供たちに呼びかけています。夏休みは普段できないことがたくさんできます。どんなことを見つけたかな？どんなことが心に強く残ったかな？8月1日の登校日にさっそく持ってきてくれた子もいました。何人かの作品を紹介します。

なつやすみあさがおひとつさきました(1年) かぶとむしぐぬぎのじゅえきもりのよる(1年)
 ひまわりとせいぐらべしてぼくのかけ(3年) どうこう日ともだちにあいもそひます(3年)
 せみが鳴き夏がきたよと合図する(5年) なつやすみかぞくみんなでしかわり(5年)

始業式には、たくさんの作品が集まります。「自分のおすすめ」の一句を貼りだして鑑賞しあえたらいいなと思っています。

さて、タイトルの～茄子で一句～ですが、私が夏休みに作った俳句です。8月11日に、句会（複数の人が自作の俳句を出し合い、評価・批評し合うための集まり）に参加する機会に恵まれました。小学校・中学校・高校・大学の先生が一所懸命作られた俳句を「冷静」に選ぶことはとても難しかったのですが、作った方のお話を聞いたり、評価し合ったりすることは新鮮で楽しく、講師の先生の添削や講評は勉強になることばかりで、あっという間に時間が過ぎていました。私が夏休みにいくつか作った中で「自分のおすすめ」は次の句です。

「とれたよ」と水跳ね上げて紺の茄子 夏座敷三月ぶりのかな厚き本

8月9月の学校行事予定です。

8/25(木) 始業式	6(火) ALT来校	23(金) 秋分の日
26(金) 交通指導 給食開始	7(水) 委員会	26(月) スクールカウンセラー来校
生活リズムチェック開始 体測1年	12(月) スクールカウンセラー来校	28(水) 委員会 漢字博士試験
27(土) 秋フェス実行委員会(九頭神社)	14(水) 3年1組研究授業	30(金) 運動会準備
29(月) 交通指導 体測2年	3年1組以外 13:15頃下校	1～3年 13:15頃下校
夏休み作品展 9:50～16:00	3年1組のみ 14:35頃下校	4～6年 15:25頃下校
30(火) 夏休み作品展 9:00～13:00	19(月) 敬老の日	10月以降の主な予定
体測3・4年	21(水) 木曜校時	10/1(土) 運動会
31(水) 体測5・6年	全学年15:25頃下校	12(水) 4・5年県学習到達度調査
9/1(木) 交通指導	22(木) 水曜校時	17(月)18(火) 6年修学旅行
5(月) 給食費・育友会費引き落とし日	6年1組研究授業	20(木) 就学時健診
	6年1組以外 13:15頃下校	28(金) 5年緑育体験
	6年1組のみ 14:35頃下校	29(土) 土曜参観 秋フェス
2・5年キッズサポート		

～「きれいだなあとと言うと景色がなおきれいになる」(高村光太郎)～

今日の始業式で子供たちにこんな話をしました。

～日本には昔から「言霊」という言葉があり、言葉は魂を持っていると信じられてきました。高村光太郎さんという彫刻や詩をたくさん作った有名な人がいます。高村さんは、「きれいだなあとと言うと景色はなおきれいになる」と言ったそうです。感動したことを言葉にして伝えたとその感動を広げることができます。自分の気持ちを確かめることもできます。

高村光太郎さんは奥さんの智恵子さんととても仲良しでした。智恵子さんも感情豊かな人で「東京には本当の空がない。本当の空が見たい。」と言ったそうです。智恵子さんのふるさととは福島県で、安達太良山（あだたらやま）が見える緑豊かな所でした。それが東京に出てきて空を見上げるとあまりきれいな空ではありません。光太郎さんは智恵子さんの気持ちを大切に、ふるさとの空を見せてあげようと一緒に旅をします。そこできれいな景色に出会い、感動して言葉を発します。

高村光太郎さんが言った「きれいだなあとと言うと景色はなおきれいになる」ということを「がんばるぞと言うと、なおがんばれるようになる」とか「あなたに『きれいな字ね』ってほめられたから、なお字を丁寧に書くようになった」などに変えてみたらどうでしょうか。自分で言ったこと、友達に言われたことで、自分の心に強く訴えるものが生まれ、さらに良い方向へ向かっていきそうです。たったひとつの言葉によって、人はうれしくなったり悲しくなったりすることは、みなさんも経験していることと思います。自分の心に感じた明るいきれいな感情を素直に言葉に表し、みんなが楽しい雰囲気の中で過ごせるようにしたいものです。自分の口から出る言葉が大きな力を持っていることを忘れず、言葉を大切にしていきたいですね。

「あどけない話」を子供たちに読んで紹介しました。校長室の前にも貼っています。昔の仮名遣いで難しいところもありますが、好きな詩の一つになるといいなと思っています。

あどけない話
高村光太郎

智恵子は東京に空が無いといふ、
 ほんとの空が見たいといふ。
 私は驚いて空を見る。
 桜若葉の間に在るのは、
 切つても切れない
 むかしなじみのきれいな空だ。
 どんよりけむる地平のぼかしは
 うすもも色の朝のしめりだ。
 智恵子は遠くを見ながら言ふ。
 あたたらやま
 阿多多羅山の山の上に
 毎日出てゐる青い空が
 智恵子のほんとの空だといふ。
 あどけない空の話である。

「阿多多羅山」は、高村光太郎が創った呼び名
 だという見方があるそうです。